



自衛隊群馬地方協力本部

JAPAN SELF DEFENSE FORCE GUNMA PROVINCIAL COOPERATION OFFICE

渋川市内4校の学生に生演奏を披露



群馬地方協力本部（本部長 防衛事務官 井ノ口哲也）は10月31日（土）、渋川市総合公園で実施された「しぶかわ芝の上ビクニック演奏会」に、第1・2音楽隊の支援を受け募集広報を実施した。

今年度は、新型コロナウイルスの影響により、コンクールや文化祭などが中止となり、吹奏楽部の学生達の力になりたいという渋川市まちづくり財団から依頼を受けた。

今回の開催においては、新型コロナウイルス感染防止対策として、野外での演奏を計画し、ソーシャルディスタンスを確保した。また、来場者を群馬県在住者に限定し、会場でのマスクの着用、検温、消毒液の使用、問診票の提示などを徹底して行い、飛沫防止対策として、ステージと観客席を仕切る飛散防止シートを設置した。

当日は、伊香保中学、渋川女子高校、渋川工業高校、渋川青翠高校の吹奏楽部が演奏を実施した後、第1・2音楽隊が準備している間、自衛隊質問コーナーを設け、今年入隊した第1・2音楽隊の新隊員3名が、演奏への意気込みや見どころを説明するとともに、来場者からの質問に丁寧に答え、自衛隊の魅力や職種を宣伝することが出来た。

最後は特別出演として第1・2音楽隊が来場者約500名に演奏を披露し、学生達は、第1・2音楽隊の演奏に聞き入っていた。群馬地本は、今後も各種イベントを通して自衛隊という職業の魅力や、やりがいを伝えていく。

首都圏防空の最前線基地を見学

群馬地方協力本部（本部長 防衛事務官 井ノ口 哲也）は11月14日（土）、募集対象者6名を引率し、航空自衛隊百里基地で開催された、オープンベースに参加した。空自の多様な職種や隊員の勤務、生活環境を紹介して頂き、空自の魅力を伝える事が出来た。

飛行場地区では、F-4戦闘機を始め、F-2戦闘機、救難捜索機、救難ヘリの4機種を見学し、普段見ることが出来ない航空機を前にして、参加者はパイロットや整備員の説明に真剣に耳を傾けるとともに、関心事項について積極的に質問していた。

航空機見学後は、消防小隊を見学し消防車の大きさに一同驚きを隠せない様子だった。普段隊員が着ている防火衣や耐熱服を試着体験し、航空自衛隊の中の消防職について、理解を深めていた。

警備職の見学では、基地警備を行う警備犬と警備員（ハンドラー）の訓練展示を見学し、隊員との厚い信頼関係の様子を見る事ができた。航空自衛隊には様々な職種がある事を理解していた。

生活環境の紹介では、実際に隊員が居住している部屋を見学し、隊員の生活環境について質問していた。群馬地本は、今後も各種見学会等を通して自衛隊という職業の魅力や、やりがいを伝えていく。



体験搭乗を支援



群馬地方協力本部（本部長 防衛事務官 井ノ口 哲也）は、11月28日（土）、相馬原飛行場において募集対象者等30名に対して第1・2ヘリコプター隊第2飛行隊の支援のもとCH-47J、JAによる体験搭乗を支援した。実施に当たっては新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として非接触型サーモグラフィー体温計による入口での検温、隊員及び参加者のマスク着用の徹底、フライト毎に座席等の消毒及びソーシャルディスタンスの確保に努めた。

当日は、晴天無風という絶好のフライト日和となり、真っ青な空と紅葉に色づいた山々の景色に多くの喜びの声が聞こえた。

普段近くで見ることのない機体を目の当たりにし「これからこれで飛ぶの」と目を丸くする参加者の姿が見られた。搭乗前にエンジンが始動すると、発生したダウンウオッシュ（吹きおろし風）に驚き、機体の迫力に歓声を上げていた。フライト後、降機した参加者は「県庁と自分の学校が見えた。」と興奮気味に話していた。「コロナ禍において広報活動にも制限がある中、対策を万全にすることで参加者にも安心して搭乗いただくことが出来た。

群馬地方協力本部は、今後も効果的な募集広報により自衛隊を幅広くPRし、募集目標の達成に尽力していく。